

エルサルバドルに 11 年住んで

私はエルサルバドル人と日本人のハーフで、高校まで日本で育ったのですが、エルサルバドルというルーツに興味もありエルサルバドルに 11 年も住むことになりました。エルサルバドルでは国立大学 UES で薬学・化学部を専攻し卒業しました。今は日本でスキンケア化粧品の処方開発の仕事をしている傍ら通訳翻訳の仕事もしているのですが、11 年のエルサルバドル生活は確実に今の日本の生活を豊かにしてくれました。

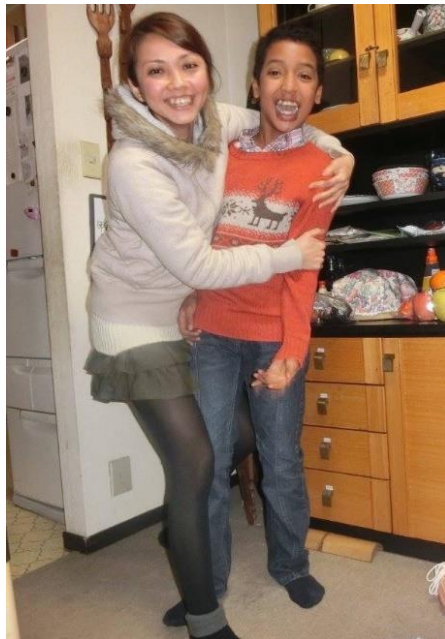
そんな私がエルサルバドル生活の中で最も影響を受けた人と言えば、住み込みで家にいたお手伝いさんのマリです。マリは母性本能の塊のような人で、私の息子、モイセスの面倒を良く見てくれました。例えば少しでも地震の揺れを感じると真っ先に他人であるはずの私の息子を助けに行ったりと、自分の命よりも今親身になって育てている子供を大事にする姿勢が普段の生活からも分かるような人でした。

また、とても自由な人で、友人が亡くなって悲しい時は大人なのに大声を張り上げて泣いたり、一人で料理しながら突然何かを思い出して大笑いをしたり、また当時彼女は 40 代～50 代でしたが、近所でパトロールのおじさんにナンパされる話や恋バナもしたりと気兼ねなく何でも話してくる人でしたので、私もはじめはスペイン語があまり話せませんでしたが、11 年間とても楽しく過ごすことができました。日本では喜怒哀楽が激しいというのは悪い意味でとられるのですが、根は温厚なマリが自然と沸き起こる感情を発散していく姿は、とても健全で幸せだなと思いました。逆に海外の人からは日本人が無表情に見えてしまい、冷たいのではないかと誤解をされてしまう事があると聞きますが、マリと過ごしたら感情をうまく表現していく事は人生を豊かにする鍵でもあるかもしれないと思いました。実際マリは家が貧しく、小学校も行かせてもらえなかったのも、文字も読めませんが、そのようなエルサルバドルの経済的には底辺の境遇で育ったとも言える様な人が私に一番の影響を与えてくれたのだなぁと感慨深くなります。



今思えば、日本にいた頃の私は引っ込み思案で同学年か年下の人としか打ち解けず、目上の人とは一線を置き、大勢の人前で話すようなことは極力避けて生きていました。日本の社会にいと、こうあるべきという常識の枠を超えないよう、はみ出さないよう気を付けなければならず、なかなか自分らしさを出せず、自信が

持てなかったのですが、11年間のエルサルバドル生活を終え、日本で生活するようになったら、人前で話すのも好きになっていましたし、エルサルバドル人の陽気な気質を取り入れた私は、自分の上司だけでなく社長とも打ち解けて冗談を言ったりするようになりました。また、お昼休みにまで仕事の話や愚痴ばかり言う日本人同僚に私生活の話やそれこそ恋バナなんかをすると、皆楽しそうにするし、あまり人と交流しながらない暗い雰囲気的女性同僚もエルサルバドルでは年齢や外見に関係なく女性であれば皆モテるというような話をしたらとても羨ましがり、その後も私とは楽しくお話するようになりました。また仕事場の関係ばかりではなく、私の息子も母を大事にする国であるエルサルバドルで育ったからか、他の思春期の日本人の子供と比べてもとても思いやりがあり、これまた青春真っ盛りの恋バナまでしてくれてとても楽しいです。



またエルサルバドル時代に日本語を教えた時の生徒が、日本を訪れた際に会ったり、日本の大手で立派に仕事するようになったりした姿を見てとても誇らしく思いました。





スペイン語が話せるようになったお陰で日本でもラテンアメリカコミュニティの友達が増え、週末にはホームパーティーをしたり、一緒に日本観光したり小旅行までしたりとプライベートの人生も豊かになりました。



これは間違いなくエルサルバドルでの生活が私の見る目を変えたのだと確信します。エルサルバドルと言うと日本では情報が乏しく、グーグルで画像検索すると人相の悪い入れ墨を顔中に行っているマラスの写真がたくさん出てきます。しかし、私はエルサルバドルにいた時はマラス地区に足を踏み入れることもなかったからか、もしくは洋服やアクセサリも現地人化したものを身に着けていたからか、11年いてもマラスに脅かされた事は一度もありませんでした。

今日本でも、もっとエルサルバドルの良いところを広めようとエルサルバドル人コミュニティーが開くプブサ会をしながら話しています。



エルサルバドルは海も湖も山も行きやすく自然豊かで気温も 28 度で過ごしやすく、アクアパークもあるので子供も大人も楽しく遊べます。

是非これからエルサルバドルを訪れる方もエルサルバドル生活を最高にエンジョイできるよう願っております。



Escobar Rocio 桜子